

水のありがたみと不足

奈良市立富雄第三中学校三年

栗本　くるみ

私達が生きていくにおいて、水は必要不可欠です。私達はもつと水のありがたみを理解することが大切です。

以前、家族とキャンプに行ったとき、水がないことがありました。私達は水道があると思いきんでいたので、水は持つてきていません。だから、飲み水ありません。そこで父が、近くの川の水をたくさんくんできました。

「この水をろ過して使おう。」

と提案してきました。私達はその水を二時間かけてろ過しました。初めての体験だったので、苦戦したしあまり多くは取れませんでした。私達は一晩とても貴重に水を使いました。私は水のありがたみを知りました。いつもあたり前のようにあつて、あたり前に使っている水に私達は助けられているのです。私達はもつと水のありがたみを感じるべきだと思います。

しかし、世界には水不足におちいつている国もあります。日本は蛇口をひねれば透明な水が出てきます。でも、全ての国がそうでしょうか。アフリカなど、蛇口からは何もでず、遠くの池ににごった水を運ばなければならない地域もあります。そのような地域の水不足を他人事にせず、私達にできることはどのようなことでしょうか。

まず一つ目は節約です。私は普段の生活で水を大切にしようと考えていません。しかし、以前洗い物をしていると母に、

「水を出しっぱなしにしないで。」と怒られました。水筒に多くの水が残ったままにすると、「水がもつたいないから飲めない量を入れな

いで。」
と言われたりもしました。私には節約できる水がたくさんあります。みんなが水のむだ使いをなくそうと意識するだけで、今も水不足になやまされている地域の手助けになります。また、遠くの地域だけでなく、自分達のためにもなり

ます。水は有限です。使い続けたらいつかなくなつてしまいます。そんな水を少しでも長く保つためにも私達が水を節約することは役立ちます。

二つ目は、募金です。日本にはユニセフという団体があります。ユニセフは、水に困っている地域の井戸などの給水設備を作っています。これによつて清潔な水がより多くの人に届いているでしょう。そんなユニセフに私達が募金をする事で、より多くの地域に安全な水を届けられます。

したがつて、私達の私生活には水不足を解消するために行動ができることがあります。私達の小さな行動でも積み重ねれば大きな変化につながります。その小さな行動を積み重ねるには、まず知ることが大切です。水の大切さや、水不足の地域の情報を知ることが重要です。そして、家族や友達に水の大切さを広めましょう。そうすることでみんなで行動でき、より大きい変化を生むでしょう。まずは自分達にできることか

らやっていきましよう。